



能代公園のエノキ



賀藤景林の植えた松



西光寺跡のケヤキ群

（木を観察する際の見どころ）

移動中など、沿道でひととき大きな木を見かけることがあると思います。実際にその木のそばに立ってみると、幹の太さや高さなど、写真や車窓からは伝わらない迫力を感じられるはずです。ぜひその大きさや魅力を感じてみてください。

こぶや曲がり

幹にできたこぶや曲がりは、風雪や傷を乗り越えてきた証。一本ごとに異なる形に、長い年月の積み重ねを見ることができます。

焼けた跡など

古木・名木の中には火事や自然災害の被害を受けてもお、成長しているものもあり、木の生命力を感じることができます。

また、焼けた年代から樹齢などを推測することもできます。



一覧は
市ホームページで



向能代の笠松
樹種：クロマツ
向能代字上野



白幡神社のケヤキ
樹種：ケヤキ
白幡神社内



真壁地の防風林
樹種：クロマツ
真壁地字悪土



能代公園のエノキ
樹種：エノキ
能代公園内



能代公園のサイカチ
樹種：サイカチ
能代公園内



能代公園下の松
樹種：クロマツ
能代公園内



住吉神社の逆さ松
樹種：クロマツ
八幡神社内



西光寺跡のケヤキ群
樹種：ケヤキ
けやき公園内



栗田定之丞の植えた松
樹種：クロマツ
出戸小公園内



賀藤景林の植えた松
樹種：クロマツ
浄城南小学校内



久喜沢の街道松
樹種：クロマツ
久喜沢字深沢



日吉神社のトチノキ
樹種：トチノキ
日吉神社内



日吉神社のケヤキ
樹種：ケヤキ
日吉神社内



舟つなぎのケヤキ
樹種：ケヤキ
倫勝寺内



大平山塔のケヤキ
樹種：ケヤキ
大平山神社内



多寶院のモミノキ
樹種：モミ
多寶院内



多寶院のブナ
樹種：ブナ
多寶院内



浄明寺のモミ
樹種：モミ
浄明寺内



国清寺跡のイチョウ
樹種：イチョウ
檜山字蟹沢



山居庵跡のイチョウ
樹種：イチョウ
檜山字越王下



檜山追分旧羽州街道松並木
樹種：クロマツ
檜山字上館



七廻杉
樹種：スギ
高岩神社参道



五輪台のイチョウ
樹種：イチョウ
荷上場字五輪台



清徳寺のケヤキ
樹種：ケヤキ
清徳寺内



清徳寺のイチョウ
樹種：イチョウ
清徳寺内



清原家墓地のイチョウ
樹種：イチョウ
二ツ井町字山根



七座神社のケヤキ
樹種：ケヤキ
七座神社内



七座神社のオンコ
樹種：イチイ
七座神社内



七座神社のクロビイタヤ
樹種：クロビイタヤ
七座神社内



不動様の千本桂
樹種：カツラ
鬼神不動神社内



愛宕神社のケヤキ
樹種：ケヤキ
愛宕神社内



山本家のケヤキ
樹種：ケヤキ
二ツ井町飛根字富根



ドッコのクルミ
樹種：クルミ
二ツ井町飛根字新富根

市内にある「古木」や「名木」をご存知ですか。市民に永く親しまれている樹木（以下「古木・名木」）を次世代へ引き継いでいくため、市が選定し、保全している木を指します。
市内には6月1日現在34件の古木・名木があり、木都能代の歴史や学術的にも貴重な木などをご紹介します。

七座神社は、天神と菅原道真を合祀する神社で、かつて移動手段が船だった時代に、船から降りてすぐにお参りできるよう、米代川沿いに石段と鳥居が今も残されています。八郎太郎の伝説も残る神社です。

平成28年9月、東北巨木調査研究会による計測調査で、地上から1.3mの高さの幹の外周が2・63mで「日本一」と言われました。二ツ井町観光協会・きみまち観光ガイドの大高一彦さんは「古くから学業や必勝祈願の神社として神社の近くだけではなく二ツ井全体で親しまれていたが、調査に立ち会い、まさか日本一の木があるとは思わず、とても驚いた」と当時の気持ちを話してくれました。その後は、地元の小中学生を案内したり、モニターツアーが来たといいます。

これまでも、これからもクロビイタヤは二ツ井を見守り続けます。



幹の太さが日本一？

七座神社のクロビイタヤ（二ツ井町小繋）



歴史を今に伝える「こぶ木」

舟つなぎのケヤキ（字仁井田白山）



阿倍比羅夫が蝦夷征伐に來た折に船をつないだ木とされ、菅江真澄の紀行文にも描かれた木です。多くのケヤキの木があり、「ケヤキの杜の寺」として親しまれている倫勝寺の中でひととき大きく、幹の形状からこぶ木と呼ばれています」と山田俊哉住職は話します。

しかし、雷で上半分が焼失し、さらに昭和34年の伊勢湾台風で今の形になりました。台風によって落ちた木の皮は、仏像の台座などに使われ、歴史を今に伝えてくれる大切な存在です。



神社を見守り続ける「逆さ松」

住吉神社の逆さ松（柳町）



正式には八幡神社ですが、住吉神社という愛称で親しまれてきました。

逆さ松は神社のシンボルツリーの一つで、書き置きの御朱印を入れている袋にも描かれています。幹の中間が太くなっており、その形から近年は奇跡や安寧、勇気をもらおうパワースポットとして訪れる人もいます。

龍神池があることから、空に昇る龍に見えると敷地内の園児に言われるなど、現在も市民に親しまれています。



新たな歴史を紡ぐ

日吉神社のケヤキ（御指南町）



ケヤキは神様が宿る木とされ、神社仏閣に多く見られる木です。令和3年1月の暴風で木の半分が折れてしまいました。日吉神社の平賀優子宮司は「多くの人が心配して連絡をくれたり来てくれたりと、ケヤキが人を呼んでくれた」と話します。折れた部分は銅板で補修され、現在の姿になりました。

折れた幹や枝は市内の方々によってベンチや食器、シャープペンシルなどに再生され、新たな姿で私たちにその姿を見せてくれています。



大火から長床を守ったご神木

日吉神社のトチノキ（御指南町）



寛文4年（1664年）に日吉神社が現在の場所に遷座した頃から、この地にあったと思われる木です。

昭和24年の第一次能代大火で日吉神社も焼かれ、トチノキも本殿側の半分が焼失しました。その際、トチノキがあったことにより本殿の南西に位置する長床が守られ、今の姿になっています。

日吉神社責任役員の中田雅俊さんは「小さい頃はトチノキのうろに入ったこともある」と昔を懐かしみます。

古木・名木を守るために

老朽化



暴風雪

病害・害虫



木も生き物で、古くなると枝が落ちたり、枯れるときもあります。雪や風、雷などの自然災害で被害を受けることや害虫などによって病気になることもあります。そうした状況を乗り切って現在の姿を残している古木・名木は非常に貴重な木々です。

その一方で、折れてしまったり、倒れてしまったりした木を植え継ぎ、子世代や孫世代の木が育っているものもあります。

市民が愛着をもって親しみ、守り、受け継いでいくことで、これからも古木・名木が次世代につながっていくでしょう。

古木・名木は所有者の方々が保全・管理され守られています。訪れた際は木を傷つけないよう気を付けて観察してください。

▶問合せ 生涯学習・スポーツ振興課 Tel 74-6040

※4・5ページの写真は5月に撮影

まだまだあります！ 天然記念物としての樹木

市内には古木・名木だけではなく、県や市で指定している天然記念物としての樹木もあります。多くの木はそれぞれの地のシンボルとして大切に守られ、保全・管理され、受け継がれてきています。

●県指定文化財

名称	所在地
いちよう	銀杏山神社内
水沢のアキタスギ天然林	二ツ井町仁鮎国有林内
母体のモミ林	母体字母体山国有林他
梅内のイチイ	二ツ井町梅内

●市指定文化財

名称	所在地
古四王神社の杉	檜山神社内
七座神社境内林	七座神社内